



支部だより

第 94 号

編集・発行

日本気象学会中部支部

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

電話 052-751-5577

2023.07.06

目次

・2023年度（令和5年度）の始まりにあたって	1
・中部支部第25期役員の補充	2
・2023年度（令和5年度）中部支部総会のお知らせ	3
・2022年度（令和4年度）中部支部研究会の報告	4
・気象サイエンスカフェの開催報告	10
・事務局からのお知らせ	11

■2023年度（令和5年度）の始まりにあたって

日本気象学会中部支部長 藤田 司

このたび支部長に就任しました名古屋地方気象台の藤田です。中部支部の発展のために微力を尽くす所存です。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は早くも6月はじめに「線状降水帯」による大雨が三重県、愛知県、静岡県を襲い、その雨量は多いところでは24時間で500ミリ近くを記録しました。また、昨年8月には新潟県と山形県の大雨、また9月には静岡県の大雨がありました。振り返ると、2020年7月の球磨川（熊本県）の氾濫、2019年の房総半島台風（第15号）、東日本台風（第19号）など、社会に大きな影響をもたらす現象が連年起きています。

この状況にあって、気象庁は技術開発、観測システムの強化などと同時に、「線状降水帯」対策のために「線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ」を設置して研究部門との連携も進めています。大雨、特に「線状降水帯」の予測には、メカニズム解明、高頻度・高密度観測とその効果的な活用、予測に適する数値予報モデルの開発などが求められ、気象学会には一層の貢献が期待されていると考えています。

大雨以外にも、地球温暖化やそれに伴う極端な気象の発生、また熱帯低気圧への影響など、気象に関わる社会からの関心、あるいは社会へのインパクトは近年大きくなっていると思います。気象学会としてはこのような社会の求めに応じた対応をすることが大切であると思います。支部にあっても、会員個人の活動に加え、気象サイエンスカフェ、支部研究会の活動を通して応えていければと考えています。

一方、気象学会では引き続き会員数の減少や大会運営の困難さが深刻な課題となっています。これらの課題は単純に気象学会の問題というわけでもありませんが、現実的な解決策が必要なことは確かです。

中部支部ではこれら期待と課題を念頭におきつつ、会員の皆様の学会活動が円滑に行われるように、本部、他の支部とも協力して事業を進めてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■中部支部第 25 期役員の補充

2023 年 1 月 5 日付、4 月 1 日付、5 月 1 日付の人事異動により、中三川浩東海地区常任理事・支部長、林広樹幹事、鈴木光幹事が転出しました。日本気象学会中部支部役員選挙細則第 4 条の規定に従い、後任役員として、藤田司会員を東海支部常任理事・支部長として、小野沢和博会員と森下和也会員を幹事として補充しました。任期はいずれも 2024 年 6 月 30 日までです。

新		旧	
東海地区常任理事	藤田 司 (名古屋地方気象台)	中三川 浩	(名古屋地方気象台)
幹事	小野沢 和博 (名古屋地方気象台)	林 広樹	(名古屋地方気象台)
幹事	森下 和也 (名古屋地方気象台)	鈴木 光	(名古屋地方気象台)

補充後の役員は以下のとおりです。

東海地区常任理事・支部長	藤田 司	(名古屋地方気象台)
東海地区常任理事	坪木 和久	(名古屋大学)
東海地区常任理事	立花 義裕	(三重大学)
東海地区常任理事	田口 正和	(愛知教育大学)
東海地区常任理事	吉村 香	(岐阜地方気象台)
東海地区常任理事	槇野 泰夫	(日本気象予報士会東海支部)
北陸地区理事	安永 数明	(富山大学)
長野・静岡地区理事	轡田 邦夫	(東海大学)
会計監査	沼本 秀紀	(日本気象協会中部支社)
幹事	小野沢 和博	(名古屋地方気象台)
幹事	森下 和也	(名古屋地方気象台)
幹事	大畑 祥	(名古屋大学)

■2023 年度（令和 5 年度）中部支部総会のお知らせ

1. 日時：2023 年 8 月 6 日（日）14 時 30 分
2. 場所：名古屋地方気象台会議室
3. 総会次第
 - (1)開会の辞 (2)支部長挨拶 (3)議長選出 (4)出席者・委任状報告
 - (5)議案審議 (6)議長解任 (7)閉会の辞

ご欠席の場合、同封の総会参加票にご記入・署名の上、ご返送をお願い致します。
議案の番号は総会参加票に示された番号です。議案の詳細を以下に示します。

総会議案

議案（1）2022 年度（令和 4 年度）中部支部事業報告

- 4 月 16 日 気象サイエンスカフェ in 信州松本を開催しました。
- 5 月 17 日 支部常任理事会を開催しました。第 24 期役員補充、総会議案の 2021 年度事業報告・会計監査報告、および 2022 年度事業計画・予算案を審議しました。
- 6 月 14 日 支部だより第 92 号を発行しました。支部長挨拶、第 24 期役員補充、2022 年度支部総会案内と議案、気象サイエンスカフェの開催報告を掲載しました。
- 6 月 23 日 第 25 期中部支部役員選挙開票（名古屋地方気象台会議室。開票：選挙管理委員会。立会：林幹事、鈴木幹事）
- 7 月 14 日 支部理事会および支部総会を開催しました。支部理事会では、2021 年度の事業報告、会計監査報告および 2022 年度の事業計画案、予算案について承認されました。支部総会では、各議案が賛成多数で可決されました。
- 9 月 3 日 第 25 回公開気象講座「気候や人間の健康に影響を及ぼす大気中の微粒子」をオンラインで開催しました。講師に金谷有剛氏（海洋研究開発機構）、松井仁志氏（名古屋大学）、奥田知明氏（慶應義塾大学）を招き、エアロゾルの IPCC 報告書における議論、エアロゾルの数値シミュレーションと気候影響、エアロゾルの曝露実験と生体影響について、ご講演いただきました。また、水嶋千詠 気象予報士にファシリテータをご担当頂きました（参加者 64 名）。
- 10 月 30 日 第 23 回気象サイエンスカフェ in 名古屋（オンライン）を開催しました。坪木和久氏（名古屋大学）を講師に招き、「豪雨をもたらす線状降水帯の実態と大気の流れの航空機観測」と題して、ご講演いただきました（参加者 90 名）。
- 11 月 4 日 支部だより第 93 号を発行しました。第 25 期中部支部役員選挙結果の報告、2022 年度支部総会報告、第 25 回公開気象講座の報告、2022 年度支部研究会のお知らせを掲載しました。
- 11 月 28 日 2022 年度中部支部研究会を名古屋大学にてオンライン併用で開催しました
～29 日 （講演題数 34 題、参加者 69 名）。
- 2 月 26 日 第 24 回気象サイエンスカフェ in 名古屋（オンライン）を開催しました。今井道夫氏（帝京大学）を講師に招き、「気象とヘリコプターの運航」と題して、ご講演いただきました（参加者 60 名）。

議案（2）2022年度（令和4年度）中部支部会計報告

2022年度 中部支部予算と実行額（2023年3月末日現在）

（2022年4月1日～2023年3月31日）

単位：円

	予算額	実行額	残額	備考
I 収入の部				
事業活動収入				
本部交付金	0	0		2022年度は本部からの交付はなく、繰越金のみで運営。
公開講座補助金	0	0		
普及啓発活動への助成	0	0		
事業収入				
公開講座参加費 (テキスト代含む)	0	0		
雑収入				
預金利子	5	9		
その他	0	0		
事業活動収入計(1)	5	9	-4	
II 支出の部				
事業活動支出 (事業費支出)				
支部だより	85,000	85,888	-888	No92, No93
印刷費	40,000	30,800	9,200	No93はPDF作成のみで 郵送せず
編集費	0	0	0	
発送費	45,000	55,088	-10,088	
ホームページ運営費	0	0	0	
サーバー借料	0	0	0	
公開講座開催費	70,000	75,833	-5,833	オンラインで実施
会場費	0	0	0	
運営費(印刷費含む)	20,000	32,273	-12,273	zoom webinar (3か月分)
講師謝金・旅費	50,000	43,560	6,440	
支部研究会開催費	280,000	222,552	57,448	
会場費	30,000	0	30,000	会場およびオンラインの ハイブリッド
運営費	50,000	65,312	-15,312	
要旨集印刷費	0	0	0	
参加旅費	200,000	157,240	42,760	
その他事業費	0	0	0	
サイエンスカフェ (3回開催)	69,000	28,000	41,000	オンラインで実施
1) 東海地区内(2回)	36,000	20,000	16,000	
チラシ・資料印刷	6,000	0	6,000	
講師謝金	20,000	20,000	0	
講師交通費	10,000	0	10,000	
2) 中部地区内 (1回)	33,000	8,000	25,000	
チラシ・資料印刷	3,000	0	3,000	
講師謝金	10,000	8,000	2,000	
講師交通費	20,000	0	20,000	
(管理費支出)				
総会・理事会費	68,000	25,964	42,036	
総会資料印刷費(往復はがき)	50,000	25,964	24,036	
理事会開催費	3,000	0	3,000	
理事会交通費	15,000	0	15,000	
秋季大会実行委員会交通費 (2回実施)	0	0	0	
役員選挙費	77,000	91,989	-14,989	
選挙公報・投票用紙印刷・発送費	75,000	89,989	-14,989	
選挙管理委員会費	2,000	2,000	0	
事務費	36,400	32,007	4,393	
通信運搬費	31,400	30,597	803	
消耗品費	5,000	1,410	3,590	
労務費	0	0	0	
その他支出 設備費	0	0	0	
事業活動支出計(2)	685,400	562,233	123,167	
III 予備費				
予備費支出計 (3)	539,277	0	539,277	
本部交付金留置き	0	0	0	
本部交付金追加(4)	0	0	0	
当期収支差額 (A) = (1)+(4)-(2)-(3)	-1,224,672	-562,224		
前期繰越収支差額 (B)	1,224,672	1,224,672		
次期繰越収支差額 (A)+(B)	0	662,448		

議案（3）2022 年度（令和 4 年度）中部支部会計監査報告

2022 年度中部支部会計報告について、沼本会計監査より適正に処理されている旨の報告がありました。

銀行残高	662,448
手持ち現金	0
合計	662,448

会計監査を行った結果、適正に処理されていたことを認めます。	
令和 5 年 3 月 24 日	沼本 秀紀
会計監査員	（印）

議案（4）2023 年度（令和 5 年度）中部支部事業計画案

- 6 月 8 日 第 1 回支部常任理事会の開催。第 25 期役員補充、2022 年度事業報告・会計報告、2023 年度事業計画・予算案の決定。
- 7 月 6 日 支部だより第 94 号の発行。支部長挨拶、第 25 期役員補充、支部総会の案内と議案、支部研究会の開催報告、気象サイエンスカフェの開催報告を掲載。総会参加票を同封して会員の皆様に発送。
- 8 月 6 日 第 1 回支部理事会および支部総会の開催。
- 11 月上旬 支部だより第 95 号の発行。支部総会報告、支部研究会のプログラム等を掲載予定。
- 11 月下旬 2023 年度支部研究会の開催。

この他に、公開気象講座の開催と、気象サイエンスカフェを名古屋で 2 回、名古屋以外の中部支部内で 1 回の開催を計画しています。

議案（5）2023 年度（令和 5 年度）中部支部予算案

2023年度 中部支部予算案

単位：円

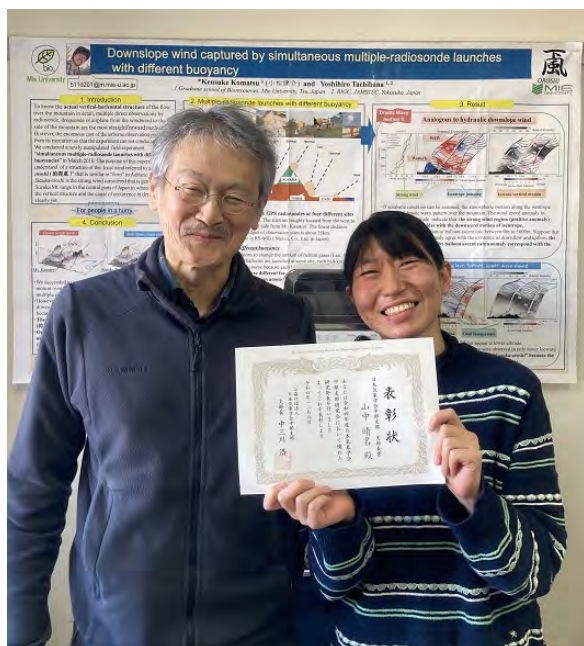
	予算額	備考
I 収入の部		
事業活動収入		
本部交付金	200,000	2023年5月1日現在の支部会員数および2022年度事業計画から決定
公開講座補助金	0	された各支部の助成額から、2022年度末支部手元金を差し引いて
普及啓発活動への助成	0	算出された交付金額。
事業収入		
公開講座参加費	0	
(テキスト代含む)		
雑収入		
預金利子	5	
その他	0	
事業活動収入計(1)	200,005	
II 支出の部		
事業活動支出		
(事業費支出)		
支部だより	85,000	No94, No95
印刷費	40,000	No95はPDF作成のみで
編集費	0	郵送せず
発送費	45,000	
ホームページ運営費	0	
サーバー借料	0	
公開講座開催費	70,000	オンラインで実施
会場費	0	
運営費(印刷費含む)	20,000	zoom webinar (3か月分)
講師謝金・旅費	50,000	
支部研究会開催費	280,000	
会場費	30,000	会場およびオンラインのハイブリッド
運営費	50,000	
要旨集印刷費	0	
参加旅費	200,000	
その他事業費	0	
サイエンスカフェ (3回開催)	69,000	オンラインで実施
1) 東海地区内(2回)	36,000	
チラシ・資料印刷	6,000	
講師謝金	20,000	
講師交通費	10,000	
2) 中部地区内 (1回)	33,000	
チラシ・資料印刷	3,000	
講師謝金	10,000	
講師交通費	20,000	
(管理費支出)		
総会・理事会費	68,000	
総会資料印刷費(往復はがき)	50,000	
理事会開催費	3,000	
理事会交通費	15,000	
秋季大会実行委員会交通費 (2回実施)	0	
役員選挙費	0	
選挙公報・投票用紙印刷・発送費	0	
選挙管理委員会費	0	
事務費	36,400	
通信運搬費	31,400	
消耗品費	5,000	
労務費	0	
その他支出 設備費	0	
事業活動支出計(2)	608,400	
III 予備費		
予備費支出計 (3)	254,053	
本部交付金留置き	0	
本部交付金追加(4)	0	
当期収支差額 (A) = (1)+(4)-(2)-(3)	-662,448	
前期繰越収支差額 (B)	662,448	
次期繰越収支差額 (A)+(B)	0	

■2022 年度（令和 4 年度）中部支部研究会の報告



昨年度の支部研究会は、2022 年 11 月 28 日（月）～29 日（火）に、名古屋大学東山キャンパス内の宇宙地気球環境研究所 研究所共同館Ⅱで開催しました。新型コロナウイルス感染対策で令和 2 年度は全面オンラインで実施し、令和 3 年度は秋季大会の準備による繁忙のため実施しなかったため、対面での開催は 3 年ぶりとなりました。今回は、遠方からも参加しやすいように、オンラインでの発表や聴講も可能としたハイブリット開催としました。発表件数は 34 件、参加者は 69 名にのぼり、内容は、大雪や豪雨、雷や竜巻、冷夏などの現象についてメソ的な分析から大気大循環からの解析、気象レーダーデータを使った解析や測器特性の研究、防災教育などなど、幅広い視点からの興味深い報告と活発な議論がありました。

令和 4 年度の日本気象学会中部支部賞は、山中晴名会員（三重大学）「洋上直接観測データで見る北海道西岸带状雲」および岩寄利勝会員（富山県高岡市立中田中学校）「生徒の主体的な学びを生かす中学校気象防災教育の実践」に贈呈されました。



左：立花理事 右：山中会員

受賞理由：三重大学 山中晴名会員

北海道西岸带状雲や石狩湾小低気圧は、北海道の石狩平野に大雪をしばしばもたらすことが知られている。しかし、その発生・発達要因については、その内部構造を海上で直接観測した例がないため、海上部分の推定がどの程度正しいものか不明であった。山中会員は、日本海観測隊の一員として、石狩湾小低気圧にともなう带状雲の洋上観測を行った。その観測結果と気象庁メソ数値予報モデル(MSM)を比較した結果、MSM が小低気圧の強度を過小に予想しており、その要因が観測で見られた利尻島沖の海面水温の急勾配が MSM の下部境界値である海面水温(HIMSST)で表現で

きていないことによるとの仮説を立てた。この仮説を立証するため、利尻島以北の海域の海面水温

を冷やした数値実験、これに加え利尻島以南の海面水温を暖めた数値実験等を行い、利尻

島沖の海面水温の急勾配が小低気圧の発達に関連していることを示唆した。このように、観測事実や数値シミュレーションに基づいてあらたな知見を得るとともに、本研究について誰もが理解しやすい明快なプレゼンテーションを行った。以上の理由から、支部長賞に選定した。



左：岩寄会員 右：柳原校長先生

受賞理由：富山県高岡市立中田中学校 岩寄利勝会員

岩寄会員が中田中学校で実践している防災教育として、①校内の気象観測やインターネット上の数値予報データに基づいた気象への理解といった、体験を通じた天気予報の科学的理解の推進、②インターネットを活用した情報の信頼性の学習やハザードマップを活用した情報収集方法の検討、③地域住民へ公開する前提での生徒による地域の防災に関するビデオの作成、などの取組がなされている。こうした防災教育は、総合的な学習の時間に行われることが期待されているものの知識不足等により、実践例は少ないことから、ある程度の気象防災の知識を持つ理科と技術科の担当

教官により進められた。このように、実施が可能な方法を検討し、実践・体験を積極的に取り入れ、また、地域の方々の協力を得て取組の動機付けを高めるなど、生徒が主体的に取り組むことができる多くの工夫を凝らした防災教育を推進している点で、他の学校での取組の模範となると考える。また、今後の取組の広がりも期待できる。以上の理由から、支部長賞に選定した。

■気象サイエンスカフェの報告

気象サイエンスカフェは、日本気象予報士会との共催イベントです。中部支部では、例年、名古屋市内で2回、名古屋を除く中部支部内で1回の計3回を、対面形式またはオンライン形式で開催しています。

◆第23回気象サイエンスカフェ in 名古屋 Zoom

日 時 : 2022年10月30日(日) 午後3時から午後4時30分

講 師 : 名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授

横浜国立大学 台風科学技術研究センター副センター長

坪木 和久 氏

テーマ : 豪雨をもたらす線状降水帯の実態と大気の河の航空機観測

参加者 : 90名

線状降水帯。今年6月から発生予測を気象庁が開始したことに伴い、テレビ、新聞をはじめとしたマスコミが大きく取り上げたこともあり、非常に関心の高いものとなっています。

その線状降水帯の発生に大きく影響を与えていると考えられている大気の河を、航空機からのドロップゾンデを使い

研究をされている名古屋大学・横浜国立大学の坪木和久教授をスピーカーにお迎えし、最新の知見についてお話をいただきました。

その内容から大学教授、学生、社会人など幅広い層から募集定員を大幅に上回る90名の方に全国から参加していただきました。

講演では、今まで発生した豪雨災害の事例から線状降水帯の発生状況、その線状降水帯に大気の河がどのように関係していたかお話をいただきました。

豪雨をもたらす降水システムは線状降水帯だけでなく多様な降水システムが存在しており線状降水帯だけに注意していればよいというわけではない。

また、線状降水帯のなかには予測できないものもあり、現状、気象庁の線状降水帯予測は精度が低いものになっています。

その原因として、日本の周辺は海であり、その海からの水蒸気移流の正確な観測が行えていないことがあげられます。

その予測精度を上げる一つの方法として、航空機からドロップゾンデを使い、大気の状態の直接観測し、その観測結果を予測システムに同化させることによって予測精度の向上を図ることを目的に実施しました。



今後の課題としては、航空機による直接観測は、予算の問題、周辺地域との調整などがあり、簡単に実施できないということをご説明いただきました。

講演終了後、参加者から多く質問をいただき活発な議論が行われました。

(日本気象予報士会東海支部)

◆第24回気象サイエンスカフェ in 名古屋 Zoom

日 時 : 2023年2月26日(日) 午後1時から午後2時40分

講 師 : 帝京大学理工学部 航空宇宙工学科 教授

今井 道夫 氏

テーマ : 気象とヘリコプターの運航

参加者 : 62名

今回もZoomでの開催となりました。

帝京大学理工学部教授の今井道夫先生に「気象とヘリコプターの運航」というテーマで航空気象に関する様々なお話をしていただきました。

先生は、長らく民間会社でヘリコプターのパイロットを勤められた後、現在では大学でパイロットを目指す学生に教えておられます。



講演では、ヘリコプターに限らず航空機一般についての用語や基礎知識についての説明をしていただいた後に、有視界飛行方式で重要となる視程や横風などについて、具体例やご自身の経験も交えてお話しいただきました。

航空機を安全に航行させるためには、気温や気圧、風向風速などの気象情報はもちろんのこと、各地のライブカメラの映像も利用していることなど、航空機の運航に関するさまざまなお話をうかがうことができ、とても興味深い内容でした。

(日本気象予報士会東海支部)

■事務局からのお知らせ

◆事務局からのお願い

日本気象学会本部および中部支部から各種案内を電子メールにて配信しております。ご案内が届いていらっしゃらない会員の皆様、ご面倒をおかけいたしますが、
日本気象学会 会員情報変更ページ

<https://www.metsoc.jp/membership-2/update-2>

から最新の電子メールアドレスのご登録をお願いいたします。

